

真心ある政治「こころのよりどころ通信」

大野市議会議員 林よりかず活動報告



大野市議会議員の林順和です。政治は常に国民、市民のものでなければなりません。私は日ごろから現場を大切に、話を聞いて「誇れるまち・大野」実現のため、市民・事業者と行政との橋渡しを心掛けています。

令和7年は巳年（へび年）、年男です。私にとっても大野市にとって大変重要な一年となることから、昨年末の定例会では予算編成方針を確認しました。次の定例会ではしっかりと「市民のため」の予算となっているか、チェックし、改善を求めたいと思います。

引き続きのご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。

林 順和 Hayashi Yorikazu 昭和52年(1977)生まれ 47歳
中央大学卒、大野市議会議員2期目

令和7年 大野市を取り巻く環境の変化・動きを共有

市は、市民にとってより幸せな状態(ウェルビーイングの向上)を目指すとしています。そのためには正しい情報の共有が欠かせません。

今回は、令和7年上半年期に起こる動き(予定であり変更となる場合があります)について、私自身が把握している範囲で皆さんと共有しておこうと思います。

- 年明け ・中部縦貫自動車道で発生した工事課題に対する具体的な対策方法が国土交通省から提示される
- 1月 12日 20歳のつどい(会場を文化会館から結とぴあに変更)
- 25日 結ステーション(旧まちなか交流センター)に、屋内型こどもの遊び場「おおの天空パーク OSORA」がオープン
- 2月 21日 市議会定例会開会(～3月25日。一般質問は3～5日)
- 年度内 ・国土交通省から中部縦貫自動車道の開通時期が示される
- ・国道158号福井市アンデパンダン広場横、仁位アクセス橋梁の下部工事が完了(う回路が解消)
- 4月 1日 結ステーション駐車場が有料化(1年間は試験運用)
- 6月、9月 ・市議会定例会
- 8月 10日 山の日全国大会記念式典を大野市で開催
- 夏 ・六呂師高原のキャンプ場整備(第一期工事)が完成、供用開始

※そのほか、公共施設使用料や各種手数料の見直し議論、文化会館のあり方検討などが進められています。ホームページ等で随時、お知らせいたします。

<https://hayashi-yorikazu.jp/>
「こころのよりどころ通信」バックナンバーや最新の市政情報は、右記のQRコードを読み取ると、簡単にアクセスすることができます。



こころのよりどころ通信15号までの歩み

皆さんの声に耳を傾けて市政に生かすツールとして発行してきた討議資料「こころのよりどころ通信」。その歩み(掲載テーマ)を振り返ります。なお、バックナンバーはホームページに掲載しております。ぜひ、ご確認ください。

第9号発行に同封した特別付録→



- 第1号(令和元年7月) 和泉自治会と地域づくり、新しい文化会館の整備
- 第2号(令和2年1月) 道の駅と市街地の回遊促進、市議会議員定数の削減
- 第3号(令和2年4月) 放課後の居場所づくり、御清水エリアの下水道整備
- 第4号(令和2年7月) 新型コロナウイルス感染症対策、行政区の見直し
- 第5号(令和2年10月) 行政のデジタル化、キャッシュレス決済の対応
- 第6号(令和3年4月) 誇れる大野市づくり 議員活動2年間の成果と方針
- 第7号(令和3年11月) 令和2年度決算に対する協議、ホームページ立ち上げ
- 第8号(令和4年3月) 令和4年度予算に対する市長・教育長への代表質問内容
- 第9号(令和4年11月) 中部縦貫自動車道の開通効果、公共交通の活用
- 特別付録「中部縦貫道開通に向けて大野の未来を語ろう」
- 第10号(令和5年5月) 星空や健康づくりの効果、財政運営、文化会館の今後
- 第11号(令和5年11月) 越前おおの観光ビューロー、こどもの遊び場と駐車場
- 第12号(令和6年5月) 行政経営方針、女性の視点、文化会館のあり方
- 第13号(令和6年7月) 文化会館整備「踏みとどまる」発言、議会ライブ中継スタート
- 第14号(令和6年10月) こどもの居場所づくりと遊び場 OSORA、中期財政見直し案
- 第15号(令和7年1月) 中部縦貫自動車道の工事課題、経済活性化策

編集後記

令和7年を迎え、晴天に恵まれた正月三が日。それから一転、小中学校が始業する8日からは寒波が到来して大雪となりました。冬が厳しい分、春を迎えた際の喜びは人一倍嬉しいもの。今しばらくは雪とともに生活を。

市役所(行政)が発信する情報がどれだけ市民に伝わっているか、特に人口減少対策をはじめとする行政課題は官民協働で解決に向けて取り組むためにも「正しい情報」を届ける姿勢が求められます。

令和7年度予算編成は新たな視点として「ウェルビーイング」「シェアリングエコノミー」「ジェンダーギャップの緩和」を加えて施策を検討する方針が議会です。私の一般質問もぜひご覧ください。ご意見などいただけたらと思います。

発行元 林よりかず後援会事務所 【電話・FAX】0779-65-0276 大野市春日二丁目5-13

大野市議会・本会議の様子(ライブ中継)や議事録は大野市ホームページ「大野市議会」のページで確認することができます。右記のQRコードを読み取ると、簡単にアクセスすることができます。ぜひ、ご確認ください。



中部縦貫自動車道の工事課題と今後の対応

【現況】中部縦貫自動車道は福井県内では九頭竜ICまで開通し、岐阜県境(油坂出入口)までの15.5キロメートルで鋭意、工事が進められています。国道158号を通過して岐阜県境まで向かうとその作業を確認することができます。

その中で昨年、箱ヶ瀬橋(通称夢のかけはし)近くの「新子馬巢谷橋(しんしばすだにばし)」において工事課題が発生しました。その概要をお知らせします。

発生した工事課題は大きく3つ

【中部縦貫自動車道整備促進室答弁
(令和6年12月定例会特別委員会)】

新子馬巢谷橋で発生した工事課題は、①九頭竜IC側に位置する橋脚の鉄筋コンクリートや鋼材で作られた巨大なケーソン基礎が、山側からの土圧が強く、沈下不能となったこと②完成済みの橋台に6センチメートルの沈下が確認されたこと③地盤に浸水などで崩れやすくなる蛇紋岩(じゃもんがん)が含まれており、のり面の微動、亀裂が発生した一とのこと。
有識者検討会での確認などを経て、年度内を目途に開通時期が示されると聞いている。



〈対応状況〉

昨年11月20日、市議会特別委員会において現地を確認しました。工事の安全を第一に、できるだけ早い開通を要望しました。

開通メリット、各ICから降りてもらおう受け皿づくりを

【市長所信表明
(令和6年12月定例会初日)】

令和7年度は第六次大野市総合計画前期基本計画の最終年度となることから、これまで取り組んできた施策の総仕上げを行う。

予算編成に当たっては、中部縦貫自動車道県内全線開通により想定される人や物の流れや生活環境の変化への対応…(途中省略)、新たな視点を加えて施策を検討するよう指示。

人口が減少する中であっても、住み続けたいまちとして持続することができるよう、令和7年度当初予算を編成していく。

林の視点

市では、事業者の「稼ぐ力」向上や公民館を核とした地域づくりを進めるとしていますが、部局がバラバラに取り組んでいるのは魅力ある地域とならず、選ばれません。

各IC(※)からいかに降りてもらおうか、官民協働による地域力の底上げが急務であり、予算も職員も注力するよう訴えています。

(※)ICとはインターチェンジのこと。市内には、大野、荒島、勝原、下山、九頭竜が設置済み。(仮称)油坂出入口も九頭竜湖畔へのアクセスとして設置されます。

地域内経済循環の促進、経済活性化に向けた道筋を ～中部縦貫自動車道大野IC、荒島ICからともに10分、アクセスの良さを生かす～

○結ステーション駐車場の有料化と中心市街地活性化

【現況】前号(第14号)でお知らせしたとおり、越前大野城のふもと結ステーション内に屋内型こどもの遊び場「おおの天空パークOSORA」を整備したことに合わせて、4月から結ステーション駐車場が有料化されます。

まちの顔である中心市街地は市外からも多くの方が訪れます。経済循環、事業者の稼ぐ力の重要な場所であり、今回の変更がどう影響するのか、注視していきます。

【観光交流課答弁
(令和6年12月定例会一般質問)】

4月からの結ステーション駐車場の料金は、入庫から30分までが無料、30分を超えて2時間までが200円、以降1時間につき100円が加算される。24時間最大の上限は1000円とし、令和7年度の試験運用中は市が直営で協力金として徴収する。

本格運用後は商店街等団体が料金を負担する場合に割引券を配布する。

【こども支援課答弁
(令和6年12月定例会一般質問)】

結ステーション駐車場はOSORA専用駐車場ではないので、OSORA利用者も料金設定に従い負担してもらう。

林の視点

2年余り前の令和4年12月議会の冒頭、市長からまちなか交流センターを改修してこどもの遊び場を整備する方針が示されました。保護者からも施設駐車場に関する意見があり、複数部署が関係することから早急な検討を求めてきました。

今回、OSORA利用者専用の駐車場ではないので有料との答弁は「こどもまんなか」と宣言した大野市として配慮が足りないと感じています。保護者の声を拾っていきます。

○星空保護区規制と六呂師高原活性化

【現況】令和5年8月に星空の世界遺産と呼ばれる「星空保護区」の認定を受けた南六呂師エリア。

令和6年度に入り、福井県が最大4億円を支援する中で民間企業による六呂師高原のキャンプ場整備が始まりました。今年の夏には供用開始される予定です。



林の視点

星空保護区の認定取得後、キャンプ場整備に対する市の対応や取り組みが進んでおらず、市民からどうなってるのか聞かれます。星空保護区認定維持(光害対策が継続できているか等)の経費は毎年かかることから、それ以上の効果が市民に見えるよう、議会として求めていきます。